

「人間対人間」の関わりを大切に、患者さんから「看護師さん」と頼ってもらえる仕事にやりがいを感じています。

医療法人社団 和風会 広島第一病院

訪問看護ステーション りんご 所長

看護師 **小路美樹子** さん(右)

医療高等課程37回生

広島第一病院 師長代理

看護師 **城賀本 誠** さん(左)

医療専門課程45回生



看護師を目指した理由

小路 看護師だった姉の影響ですね。憧れでもあり、小さい頃から「私も看護師になろう！」と思っていたので、高校卒業後、広島市医師会看護専門学校へ進学しました。

城賀本 私は小学校の教員を目指して大学に進学し、その後は教員として働いていました。しばらくして、養護学級を受け持つ機会があり、障害を持つ子どもと関わる中で、教育の原点というか『こういう子を教えたいなあ』という気持ちが芽生えはじめ、そこからさらに『障害をもった方の力になりたいなあ』と思うようになりました。実は私の姉も看護師をしており、そういった方の支えになりたいと相談したところ、「今は男性も看護師を目指す人が多いよ」とのアドバイスがあり、看護の道へ入りました。

本校で学んで良かったと思うこと

城賀本 私の時代は、みんな勤務をしながら通っていて、違う診療科で働いている人から、病院でどんな仕事をしているのかとか、知らないことの話聞くことができる点が良かったですね。

小路 そうそう。仕事で学んだことを話したりして、情報の共有をしていましたね。私は病院で住み込みで働きながら、学校に通ってました。午前中は学校、午後からは仕事といったスケジュールで。実習先へも病院から通っていたんですよ。クラスメイトにもそういった子が多く、同じ環境だからこそ、辛くても仲間と励まし合ったり、助け合って乗り越えました。

臨地実習の思い出

小路 実習先は市内の病院で、担当の指導者さんが優しい方だったのが印象に残っています。実習は大変でしたが、勤務先以外の病院で学べることにワクワクし、毎日楽しみに実習に臨んでいました。いつも早く行って実習の準備をしていると、そのことを褒めてくださり、がんばっていることが評価され、とてもうれしかったのを覚えています。

城賀本 実習はホント、しんどかったですね。でも、後から振り返ったら、すごくためになったというか、それがあったから今があるというか。



気さくに話してくださるお二人。

精神科実習は患者さんやご家族と一緒に何かを行う関わりがとても楽しく、あっという間でした。最終日には、実習中にしてあげられなかったことや自分ができなかったことに対し、申し訳ない気持ちになり、涙を流しながら患者さんと別れた思い出があります。

患者さんやご家族から「これから、がんばってよ。」と言われたのは、今でも覚えています。

広島第一病院で仕事を始めたきっかけ

小 路 准看護科に通っている時の勤務先に卒業後も数年間勤務をしていましたが、出産を機に退職しました。2年間、育児に専念した後、『働きたい』となって、当時、広島第一病院で勤務していた同級生が「働きやすくて、いいよ」と勧めてくれたこともあり入職しました。それからは、ずっとここで働いています。

城賀本 私は学生時代、一般科で勤務していたので、『卒業後の就職先も一般科になるのかな…』ぐらいに思っていました。ですが実習で、『精神科っておもしろいな』という興味と『人間対人間の看護で自分の力が発揮できたら』という気持ちが強くなり、精神科への就職を考えるようになりました。

そんな時、たまたまですが、授業で隣に座っていた人が広島第一病院で勤務しており、病院のことを尋ねると「すごく人間関係がいいし、働きやすいよ」と話してくれたうえに、院長先生にも紹介してくれたんです。そういったご縁もあって、面接後すぐ入職しました。

小 路 入職は同級生に勧められてですが、とにかく『仕事をしよう!』と思っていましたね。で、いざ働かだすと、楽しいこともいろいろあって、たくさんのやりがいがあることに気がきました。確かに精神科には難しい面がありますが、奥が深い看護だと思います。



ナースステーションでの城賀本さん。

広島第一病院の雰囲気について

小 路 雰囲気は、良いと思います。他の診療科と比べてはいけませんが、精神科ならではの良さというか。職員間のコミュニケーションも図れていると思うし、みんなで助け合っているところも良いと思います。

城賀本 そこは強味だなと思います。人間関係も良いですね。



小路さんと「訪問看護ステーション りんご」のスタッフの皆さん。

入職後の配属先

城賀本 入職して最初の配属は、急性期病棟でした。4年ぐらいして他の病棟へ異動し、全病棟経験しました。

小 路 私も急性期病棟から始まって、現在の所属である訪問看護ステーションに異動するまで、認知症病棟に半年ぐらい所属した以外は、ずっと急性期病棟でした。

急性期病棟でのお仕事について

小 路 入院されてすぐの患者さんの中には、薬を飲まない方も多くおられます。そういう場合は、静かな環境で落ち着かれるのを待つんです。患者さんの状態を見守りながら『そろそろ薬が飲めるかな?』となった頃に薬を勧めて、少しずつ落ち着いてもらって。そして徐々に行動範囲を広げていく看護を行います。

急性期病棟にはいろいろな患者さんがおられます。入院時の悪い状態から、治療を経て良くなっていく様子を目の当たりにすると、『患者さんって、こんなに変わるんだ!』と感動します。

城賀本 その薬による治療にいくまでの過程において、患者さんと信頼関係をしっかり築く必要があるんです。関係が良好でないと、患者さんは治療に協力してくれないんです。

なので、私たちの看護は、「どのようにしたら信頼関係を築けるか」というところから始まっています。

だからこそ、信頼関係がバチーンとつながった時には、すごくうれしいし、やりがいを感じます。

「この看護師さんだったら、私、薬が飲みやすいな」とか、「この看護師さんだったら、言うこときくよ。検査にも協力するよ」とかね。

小 路 やっぱり、信頼関係って大切ですね。コミュニケーションを図って、「看護師さん」って頼ってほしい。

城賀本 そうなったら、いいですね。実は私、患者さんは具合の悪い時の私たちの関わりについては、覚えておられないだろうと置いていたんです。でも、ある患者さんが、状態が安定された時にその時のことについて話されたんです。そして、「あの時は、ありがとうね」と言われた時は、覚えておられたんだという驚きとともに、うれしさがこみ上げてきました。

小 路 「ありがとうね」とか言われたら、すごくうれしいよね。



急性期病棟の皆さん。

現在のお仕事について

城賀本 今は急性期病棟で勤務しています。

小 路 私は現在は、訪問看護ステーションで勤務しています。1日に4、5件のお宅を訪問し、体調管理やお薬をきちんと飲まれているかの確認のほか、日常生活においてもサポートを行っています。

週に1回の訪問の方が多いのですが、毎週通うなかで、『ちょっと、今日は様子がおかしいな』と思えば、医師に報告して対応をとっています。

また、ヘルパーさんや他職種の方に、「今日はこういう状態でしたよ」とか、訪問される時に「これをお願いしますね」と伝えるなど、連携を図ってその人を支えています。

訪問した時に、患者さんがすごく喜んでくださったり、「来てもらって、助かります。」とご家族の方に言われると、『来てよかったなあ』って、毎日やりがいを感じています。



経験を活かしながら地域医療を支える小路さん。

仕事をする上で大切にしていること

小 路 一番は健康ですね。自分自身が心身共に健康でないと、患者さんに対して良い看護を提供することが難しくなると感じています。

確かに一生懸命やるのはいいことですが、そのせいで自分がつぶれてしまってはダメですね。自分のメンタル面も見極め、良い状態を維持できるように心がけています。

城賀本 そうですね。自分の健康って、大事ななあと思います。

私が大切にしていることは、院長もよく言われるのですが、「身内の看護、身内にしてもらいたい看護を目指す」ですね。この言葉を聞くと、いつも『そうだなあ』と思います。そういった看護を自分が率先して患者さんやご家族に提供するという思いを大切にしています。

目指す看護師像

小 路 私は病棟で長い期間、急性期の患者さんを受けもたせてもらって、精神科看護のことは分かっているつもりでした。しかし、去年から訪問看護へ変わってみると、仕事が全然違ったんです。そして、『私、分かっていないことがいっぱいあるな』と思いました。

患者さんが退院するにあたって、訪問看護はとても重要な役割を担います。普通に生活を送るためには訪問看護師のサポートが必要だし、ヘルパーさんも加わる。多くの地域の方と連携しながらその方を支えていき、生活環境をつくっていくんです。すべきことについて、『ああ、こんなにあるんだ』と、やってみて初めて気付いたので、これからもっと訪問看護について勉強していかなきゃと思っています。

城賀本 目指すとかではないのですが、今は学生を指導するほかに、教育委員会に所属し、スタッフの指導にも携わっています。自分が思い描く看護に対する気持ちというか、思いを後継者という訳ではありませんが、一人でも多くの人を育てていけたらと考えています。

後輩実習生を受け入れて思うこと

城賀本 実習に来られているのが、准看護科の学生さんなんで、ホントもう、まっさらなんですよ。何も分からない状態から実習が始まって、吸収することはばかりだと思うんです。私たちでは気付かなかったことも、学生さんから見たらとても新鮮で、そのことについて言ってもらった時に「ああ、そうか！」となったこともあります。実習生を受け入れることで、また基本的なところに戻ることができますね。

後輩に期待すること

小路 せっかく看護師になるんだから、長く続けてほしいというのはありますね。

城賀本 実習で学生さんが来られた時には、「看護師さんをしっかり見て。どういうことをしているか見て。良い看護師さん、悪い看護師さんを見て。そして、自分がなりたい看護師さん、なりたくない看護師さんについて学んで！」と話をします。

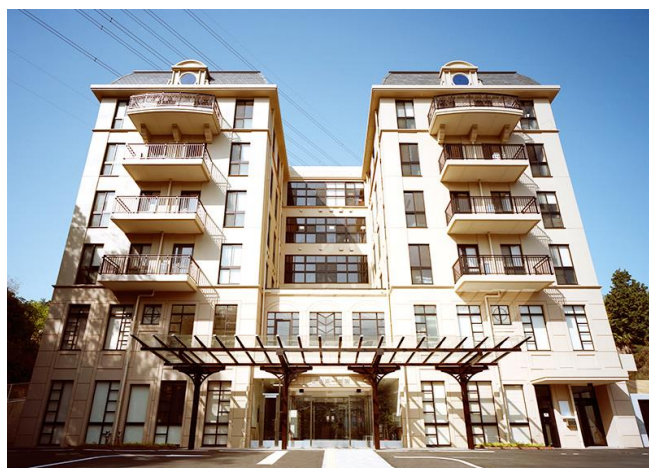
小路 実習に行ったら、良い指導者さんもいれば、厳しい方などいろんな方を見ます。自分が嫌だなと思う看護師にはなってほしくないですね。嫌だと思ったことは吸収せず、良いなと感じたことをしっかり吸収してほしいですね。また、働きながら学校へ通っている学生には、仕事が終わってからの学校は、しんどいだろうなと思いつつ、『がんばっておいで』という気持ちで見守っています。

これから看護師を目指す人へメッセージ

小路 絶対に挫折はあると思います。勉強も大変ですし、辛いこともあります。でも、それ以上にうれしいことがたくさんあるので、がんばって乗り越えてほしいですね。看護師はやりがいのある仕事なので。

城賀本 精神科は身体を看るというよりも、『人間を看る』なんです。人間対人間が看護に繋がってくるし、自分自身の関わりや声かけ、接し方などが患者さんにとっての治療に大きな役割となってきます。そういった関わりは、とてもやりがいがあり、楽しいですし、自分が行ったことに対して、何かしら返ってくる仕事なんです。その素晴らしさを見つけてほしいと思います。

医療法人社団 和風会 広島第一病院の紹介



人と人とのふれあいを大切に、精神科全般の治療やカウンセリングなど、心のケアに総合的に取り組んでおられる病院です。

また、患者さんのニーズに合わせた通所施設、訪問看護ステーションも併設され、一人ひとりに合った温かいサポートで地域医療を支えておられます。

当校の准看護科、看護科の実習施設としても、多くの学生を受け入れていただいています。

広島市東区戸坂南2丁目9番15号
TEL (082) 229-0211 (代表)

広島第一病院のホームページはこちら
<http://www.wafukai.jp>